

洛友会会報

京都大学工学部
電気系教室内
洛友会
京都市左京区吉田本町

早春雑感

副会長 大谷泰之

この会報が会員の皆様に届く頃は、卒業、就職、入学のシーズンも終り、桜前線がレールで結ばれた日本列島を北上する陽春を迎えていることと思われる。今年になってからの季節の移り変りを見ると、

昨今の激変する世界的政治経済社会状況と同様、予報が当たらないことが多かったように思われる。1月の暖冬から2月の厳寒へ、そして3月になって寒暖を繰り返しつつ、漸く梅前線の北上が始まってきた。

余談はさて置き、本文では新年以後の話題について述べてみたい。先づ1月4日京大大会館で恒例の名刺交換会が行われ、相憎くの雨天にも拘らず、94歳のご高齢の会長松田先生も出席されて、先生の音頭での万才三唱で閉会したが、冒頭の総長の新年挨拶の中で京大のアメフトチームが前日行われた社会人チームとの決勝戦で昨年に引続

き見事に日本一の座を獲得した快挙や、京大出身の利根川博士のノーベル生理学賞受賞その他の嬉しいニュースが中心になったことが思い出される。

ここで松田先生の近況を申し上げると、1月中旬から約2週間、貧血気味のご不快で入院加療を続けておられたが、その後は自宅でご静養中であり、一日も早いご全快をお祈りしている次第である。

次に2月6日京都タワーホテルで開かれた恒例の洛友会常任役員会についてご報告したい。当日はご静養中の松田会長を除いて合計20名以上の多数の役員が出席された。珍らしく芦原義重副会長が90歳に近いご高令にも拘らず、お元気な姿を見せられ、大正13年卒の同期生も今では八名になって、些か淋しいがご自身は月に数回上京される程お元気に頑張っておられる

などのスピーチがあった。

洛支部状況報告の中では中部支部の幹事から、やはり大正13年卒で卒寿を迎えられた本多静雄副会長がご夫人を同伴して親友の杉本健吉画伯と合計三三三歳の老夫妻二組で、昨年11月世界ひと回り11日間の旅をされた。印象記の中の新連載記事のコピーが配られたが、益々お元気な大先輩のお姿に敬服した次第であった。

役員会の議題としては来る6月11日京都で開催される総会に於ける例年通りの議題の外に今回は名簿を発行しない年度の支部交付金の算出配分法について近藤文治常任幹事から詳しい説明があった。又昨年12月発行配布された会員名簿については東京支部はじめ関係支部から広告募集について、又本部でもそれらの編集事務について、

何れも大変ご苦労になったこと等の話も出た上、更に近藤常任幹事から名簿発行頻度等について新たな話題が提供され、今後各支部で引続き検討して頂くことになった。

なお永年常任幹事としてご苦勞頂いている近藤文治先生が本年2月から大阪電気通信大学の学長に就任されたことを茲で申し添えたい。先般先生が理事長をしておられる応用科学研究所の旧建物の改築第一期工事が終わった許りであり、同所の常務理事でもある竹村

清常任幹事とともに多忙を極めておられる中での洛友会のお世話に對して心から感謝申し上げる次第である。

昭和63年度洛友会総会通知

○名を超える会員の皆様の益々のご健勝をご活躍を祈るとともに本会発展のためご尽力頂いている本部及び各支部役員の皆様にも末筆乍ら深謝申し上げます次第である。

- 一、年月日 昭和63年6月11日(日)
- 一、場所 ホテル京阪京都(京都駅八条出口前アバンティ東側)
- 一、行事 (1) 関西支部総会
- (2) 本部総会
- (3) 懇親会
- 一、会費 四、〇〇〇円
- 一、会費 同 二、〇〇〇円

ただし昭和六十三年三月卒業者は無料
会費は、別紙総会用振替用紙にてお払込みください。なお、これでご総会出席通知に代えますので、ご出席の方は五月二十日までにご返事をお願いいたします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、多数お誘い合せの上ご出席ください。

電気系教室だより

昭和62年度電気系教室

卒業生の進学・就職情況

電気工学教室主任 卯本重郎(昭和28年卒)
電子工学教室主任 川端 昭(昭和28年卒)
電気工学第二教室主任 荒木光彦(昭和41年卒)

電気系教室昭和62年度卒業生の進学ならびに就職状況について御報告申し上げます。
学部卒業予定者一二一名(外国人を含む)の内、84名が大学院修士課程へ進学することになってお

り、専攻別内訳は別表の通りです。
修士課程電気工学・電子工学・電気工学第二専攻には、別表記載の本学進学者の他、他大学から5名(大阪大学2名、大阪府立大学1名、京都芸文繊維大学1名、熊本

大学1名) および外国人別途選考入学者が4名いますので、合計90名になります。修士課程修了予定者83名につきましては、7名が博士課程へ進学いたします。これ以外に他大学からの入学予定者が3名あり、本年度の博士課程入・進学者は合計10名です。以上のようにな多数の学生が上級課程へ進級し、さらに勉学・研究を続けてくられますことは、電気・電子技術の発展状況をみれば当然のこととは言え、まことに喜ばしい傾向であると考えております。ところで、本年度特に顕著になってきましたこととして、博士課程入・進学者における外国人の割合の増加があげられます。(本年10名中6名が外国人です。)これは、科学技術分野における日本の成長を反映したものと考えられます。かつて多数の日本人が欧米において高等教育を受け日本の発展に大いに貢献した事を考えれば、今度はその役割を日本が受け持つ番であるといえましょう。この観点から外国人の教育にも大いに力を入れる所存でございます。ただし、日本人の博士課程進学者が四名とは、まことに少なく、今後の研究活動・学問の発展を考えますに少なからず危惧の念を抱くところであります。社会一般の風潮によるところもありましようが、大学といたしまして

もより魅力ある存在になるべく努力せねばと自省している次第です。卒業生の就職状況ですが、本年度も多種多様な企業から多数の求人をお願いいただき、別表のように就職することになりました。世の中では製造業離れというようになっていますが、言われているようでございますが、こと京都大学の電気系卒業生につきましては、75%が電気関連の事業所・メーカーへ就職し、その他の製造業・研究所などを合せば、約95%が技術関係の仕事に就くことになっております。学生の就職に関しましては、本年も洛友会会

種別	学部	修士	進学・就職先
官公庁	0	3	大阪市, 電波研究所, 郵政省
電力	4	8	関西電力, 四国電力, 東京電力, 中国電力, 中部電力, 北陸電力
通信・放送	1	7	KDD, NHK, NTT
電気関連メーカー	18	42	沖電気, 三洋電機, シャープ, 住友電工, ソニー, 立石電機, 東芝, 日本電気, 日本電子, 日本IBM, パイオニア, 日立製作所, 日立電線, 富士通, 古河電工, 松下電器, 三菱ソフト, 三菱電機, 村田製作所, 横河電機, ASTEC, YHP
機械・化学・鉄鋼・その他のメーカー	3	11	キャノン, 小松製作所, 新日鐵, 東陶, 東レ, 豊田自動織機, 日産自動車, 日本板硝子, 日本楽器, 任天堂, 富士写真, ミノルタ, リコー
交通・ガス	2	3	大阪ガス, 日本航空, 阪急電鉄, JR東海, JR西日本
その他	2	2	大和銀行, 三井銀行, 三菱商事, リクルート
小計	30	76	京都大学大学院修士課程(電気・電子・電II専攻81, 応用システム科学専攻2, 情報工学専攻1) 京都大学大学院博士課程
進学	84	7	
計	114	83	

程電気工学専攻修了) 員の諸先輩に多大の御助力をいただきました。紙面を借りて厚く御礼申し上げますとともに、今後共変らぬご支援を御願いたします。

教官の移動

前号のお知らせ以降つぎのような異動がありました。

昭和63年4月1日、京都工芸繊維大学工学部電子工学教室教授(高周波工学講座)に転任(昭和31年電気工学科卒、昭和33年3月修士過

野田 進
昭和63年4月1日、電気工学教室(佐々木研)助手に採用。(昭和57年電気工学科卒、昭和59年3月修士課程電気工学専攻) 修了

高橋 信行
昭和63年4月1日、電子工学教室(小倉研)助手に採用。(京都工芸繊維大学修士過程修了、昭和63年3月東京工業大学博士後期過程認定退学)

吉本 昌広
昭和63年4月1日、電気工学第二教室(松波研)助手に採用。(昭和58年電子工学科卒、昭和60年3月修士過程電気工学第二専攻修了)

佐藤 理史
昭和63年4月1日、電気工学第二教室(長尾研)助手に採用。(昭和58年電気工学第二学科卒、昭和60年3月修士過程電気工学第二専攻修了)

宇土 顯彦
昭和63年4月1日、電気工学教室(西川研)助手を退職、摂南大学助教に転出(昭和48年電気工学科卒)

大村 善治
昭和63年3月1日、電気工学第二教室(木村研)助手を退職、超高層電波研究センター1助手に転出(昭和55年電子工学科卒)

菊間 信良
昭和63年4月1日、電子工学教室(池上研)助手を退職、名古屋工業大学助手に転出(昭和57年名古屋工業大学卒、昭和62年3月博士後期課程電気工学第二専攻認定退学)

歴史の面影を残した玄関ポーチなど組み込み 改築工事がスタート・ハイセンスの電気教室本館

電子工学科教授(兼)工学部
附属イオン工学実験施設長

高木俊宜(昭22卒)

電気系教室の建物の歴史とその改築・新営工事につきましては、洛友会会報で昭和53年10月(第一〇五号)以来、55年7月(第二二二号)、56年7月(第一一六号)、同10月(第一一七号)、57年10月(第一二二号)と、その都度、本計画に対し多大のご尽力を賜りました近藤文治教授あるいは池上淳一教授(いづれも当時)から詳細な報告がなされてきました。

正面玄関のあるレンガ造り西館(電気工学科教室本館)を残して、昭和57年6月、新館が完成した時の報告(第一二二号)で、近藤教授は「電気教室90余年の歴史の中で特筆すべき工事が殆んど終わった訳だが、電気教室の全体構想のうえからは、入魂の工事とも云うべき西館の外観保存・内部改築という「難工事」を残している。洛友会員の今後の格別のご声援を賜りたい」と結んでおられます。

京都帝国大学になってからの最初のレンガ造り(明治33年・35年)、電気系教室の象徴ともいえる玄関ポーチと銀杏の樹、それにま



つわる諸先輩の限らない愛着の情などなど、現在、教室をあづかっている我々教職員としても西館をそのままの形で残したいと云う思いは全く同じであります。一方、日進月歩と云う言葉でさえも止まっているかのように見える程のスピードで突っ走っている電気・電子分野の進展に加えて、大学での研究規模が果しなく大きくなり限りなく装置産業的になって来たた

め、各研究室の割当面積の不足が研究活動上深刻な問題となり、赤レンガの西館改築による有効利用が急務となって参りました。

その二つの要因の相剋が、まさしく「難事業」と云う言葉に凝集しているといえましょう。

しかし、現実には厳しく、西館をそのままの形で外観保存するということは到底受け入れられるような状況にはなく、国の財政も緊縮の一途を辿り電気系教室新営構想の最終段階は、その後の教室主任を中心とした懸命の努力、関係部局との交渉にも拘らず、解決の糸口を見出すに至りませんでした。

しかも、工学部には老朽建屋が多く、他教室の新営へと次第に関心が移ってゆく雰囲気になって参りました。

一番の問題点は、従来、電気系教室の希望で、そのままの外観保存と内部改築を「歴史的建造物保存調査専門委員会」に要望し了解を得てきたいきさつ上、その主旨を残しながら、具体的にどうするかの解決策を関係部局間でどのように調整してゆくか、また、関係部局に了解して戴くかが非常に難しい課題となりました。

昭和60年から61年にかけて、施設部今企画課長当時ほか関係各位の積極的な助言のもと、赤井工学部長(当時)をはじめ工学部事務

部の熱心な協力ならびに建築委員会関係各位の良識によって、たゞ重なる厳しい論議を経ながらもようやく解決の糸口を掴むことのできる雰囲気になってきました。教室としては、教室教授会の了解のもとに、筆者を中心として教室主任の協力を得て集中的に努力してゆく体制を作り対応に遺憾なきよう配慮して参りました。

もう一つの問題点は、工学部のように老朽化建物が多く、建替え希望の教室を数多く抱えている学部では、なぜ、電気系建物の改築を優先的に引き続きやってゆかねばならないかと云う事情を他教室の皆さんに理解して戴くことでありました。

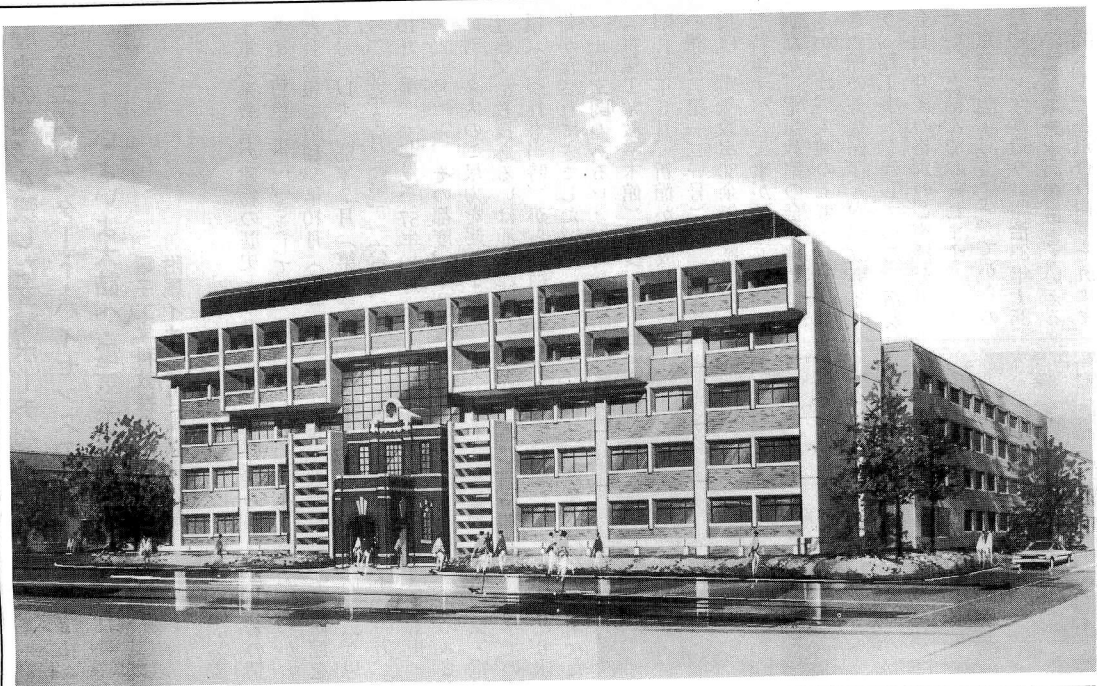
ご承知のように諸外国の調和のとれた国際交流を積極的に進めてゆく必要性がますます重要になって参りましたが、学術交流に適した設備と雰囲気をもつ討論の場が大学構内に殆んどないことも問題です。そこで、今回の電気系教室西館の改築にあたっては、赤レンガ正面玄関から入ったところの一階部分を工学部を中心とした学術国際交流の場として整備し、ミーティングルームやサロン風の談話室を設け、これを新しくつくる建物の一つの特長としました。

次に、昭和53年4月「クラスタリーイオン工学領域」と云う一講座

で発足した工学部附属イオン工学実験施設に、昭和61年4月より外国人客員教授、同助教専用講座「イオン工学的新材料開発領域」が認可されたため、二部門の施設整備が必要となりました。これは赴任旅費、給料、宿舍の用意などすべて京都大学側で受持つと云うもので、教官の行う一般研究に、このような国際交流を主目的とした講座ができるのは画期的なことでありました。この施設整備を行うことを強調して要求する。

それに併せて懸案の電気系建物の整備を行うと云うことで関係各方面の御理解を戴きました。なお、本計画の途中で、昭和61年4月設置が認可された工学部附属重質炭素資源転換工学実験施設(化学系)の施設整備を加えるよう施設部より強い要請がありましたので、電気系建物面積に食いこまないこと、電気系実験室の実験に悪影響のないよう十分配慮して戴くと云うことで五階部分に設置することを受入れました。その結果、本部構内としては初めての地下一階地上五階(従来は地上四階までしか認められなかった)、総床面積四〇二七・八平方米、鉄心・鉄骨併用方式で、国際学術交流に特長を持った合同庁舎的指向の近代ビル構想がまとまりました。

建築系教室、施設部をはじめ関



保各方面のご配慮で歴史的建造物としての外観保存の主旨が尊重され巨大なキーストーンを頂いたアーチ形の玄関ポーチ(幅四・五米、奥行き四米、高さ六米)と両サイドの壁面(幅九米、高さ十二米)を残し、それに調和し、それを強調するハイセンスの設計ができあがりました。図がその完成予想図です。図の右側奥がイオン工学実験施設実験棟とそれにつづく新しい電気系南館でいづれも赤レンガ色のタイル張りです。玄関ポーチや両サイドの壁面を配置した正面から右側地上4階まで(南裾部分)がイオン工学実験施設、中央から左側(北側)が電気系教室の新築整備部分、ただし1階は国際交流用サロン、5階(これは前半分だけの構造になります)が重質炭素資源転換工事実験施設です。

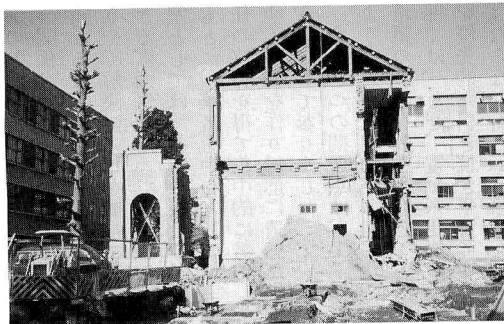
建物右側(南裾)の3、4階は、イオン工学実験施設の既設の実験棟と連絡橋で連絡され、左側(北裾)は既設の電気第二教室と構造的に各階で連結されますので、各研究棟間の連絡は円滑になります。教室に充てられる部分には新しく講読室も設けられ、各研究室はその研究目的に応じた内部装備に工夫が凝らされる予定です。

この図には建物の説明の便宜上銀杏の木が画いてありませんが、一對の銀杏の樹は玄関ポーチと共に

に永く電気教室の象徴として残ることになります。

建物の色調は、中央に残る玄関ポーチの赤レンガの色がポイントとして映えるように、そして既に完成しているイオン工学実験施設の実験棟や電気系新築建物の赤レンガ色タイルとも異和感のない色とデザインが施設部の手で慎重に検討されております。基調は白色に近いクリーム色とし、それに図に示すようなデザインのアクセントをつける案が有力と聞いております。

この建物の完成によって、電気系としての基準床面積は完全に確保されることとなり18講座それぞれに一講座当り約三〇〇平方メートル

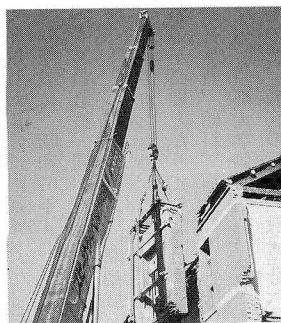


(ただし、講義室、図書室、事務室、廊下など共用諸設備は除いた実際の研究室床面積)が確保でき、教育・研究活動の飛躍の活性化が期待されます。

このようにして、電気系西館工事計画が漸くまとまり、昭和61年度末に昭和62年度より着工と決定致しました。

昭和62年9月13日(15日付)の新聞には「また一つ「明治」が消える、京大の電気工学教室本館建て替え、玄関ポーチは保存」とか「明治の面影残します、玄関ポーチなど組み込み、近く建て替え」と云った表現で報道されています。また、「建て替えて、旧建物の一部を残すのは今回が初めて」と云った紹介記事も見られました。

教室では、早速、西館内部の一時移転、完成後の整備計画の決定など精力的に進め、昨年9月施設部により取り壊し作業が開始されました。まず玄関ポーチをそのまま一對の銀杏の木の所まで引き出



し、玄関ポーチ上にそびえるキーストーンや残す予定のポーチ両サイド壁面をカッターで敷区分に分割し、クレーンで吊りあげて（写真参照）、予め用意した鉄アンダルのケースの中に立てた状態で保管しました。その他は撤去したのち、11月より構内遺跡調査会と京大埋蔵文化財研究センターによって建築予定地を中心に約一六〇〇平方メートルの発掘調査が行なわれ、今年3月終了、3月14日に現地説明会がありました。

イオン工学実験施設実験棟の新築時に昭和54年1月～3月にかけて、続いて電気系建物改築時に昭和55年7月～11月にかけて旧赤レンガが建て南側校舎敷地を二回に亘り調査した結果（会報第一一六号、昭和56年7月）からも推定できますように、白川道跡（江戸後期～明治までの百数十年間にわたる近世の路面跡）が主な調査対象となりました。

古代以来、京都と近江を結ぶ主要街道の一つとして知られる白川道は、現在の状況から云えば、バス停「北白川」の所へ比叡山の方向から斜に出てくる道が東一条のところで斜に京大の館のほうへ出て行っている道と連らなっていたものと想像して戴ければよいわけですから今回の場合にはその道が建設予定地の南端を東北東から、

南南西に横断していることになり

路面は五時期に分かれ、最も古い層は砂質の土をつき固めただけの幅40センチ、深さ40センチ程度のものでしたが、その上の三層は小さな礫を敷き舗装されており、道路幅は白川道の最盛期約四・五mもあつたなど白川道の変遷について興味深い資料が得られたとのことです。

以上で、新築についての基本的準備がすべて終了し、今年度（昭和63年度）中に、さきに示しました完成予想図のような見事な電気系教室の表支関が完成し、来年6月頃には永年の悲願であつた電気系教室の改築がすべて終了致します。

今回の建物ではじめて地上五階が認められましたことは、京都と云うかけがえのない景観と雰囲気にも慎重な配慮をしながらも、キャンパスもいよいよ高層化時代を真剣に考える時代を迎えざるを得なくなつたさうとも云えましよう。

昭和55年イオン工学実験施設実験棟新営に際し、工学部として始めて赤レンガ色モルタル張りを採用し、戦後のモルタル打ち抜きの時代に区切りをつけたことと思ひ合せ、古き良き伝統を尊重しながら進取の精神に富んだ電気教室の気分を感じざるを得ません。

最後に、私ごとで恐縮ですが、前回の洛友会会報で紹介戴きましたように、22年8ヶ月教授として御世話になりました電気系教室を3月末をもって停年退官致します。その間、昭和49年のイオン源研究室（大電力イオン源特別設備室、地上3階建）新営、永い間の懸案であつた電気・電子工学科の全面改築新営工事開始の契機ともなつた昭和53年から55年にかけての工学部附属イオン工学実験施設（新

設）実験棟新営（会報、第一〇五号参照）、それに電気系建物改築の総仕上げともなりました昭和60年から64年にかけての今回の電気系建物等新営工事と3回も新研究室、新施設、教室などの新営・整備に関与するめぐり合せとなりました。在職中に賜りました皆様方の御厚情と御支援に深く感謝申し上げますと共に、教室のますますの発展と皆様方の御多幸をお祈りしつつ筆をおきます。

講習所卒業の皆さまへ

陽春の光もさわやかな好季節となりました。同窓の皆様卒業以来七十三年から四十八年の春を迎えましたが、お元氣でお過ごしのことでしょうか。皆様のご身辺にもいろいろのことがおありのことと思ひますので、その後の報告なども兼ねて思ひ出の京都で、洛友デルタ会全国大会を開催講演会と懇親会とを催します。ご出席くださいますようお願い申し上げます。なお、ご出席の方は左記神戸俊夫幹事長までお申込みくださいますようお願いいたします。

記

- 一、日 時 昭和六十三年九月十八日(日)午後一時
- 一、集合場所 近畿地方京都発明センター（詳細は別に連絡します）
- 一、講 演 京都大学教授 板谷 良平先生
- 一、懇親会場 京都市中京区河原町竹屋町東入「石長」
- 一、懇親会 同日午後六時より
- 一、会 費 懇親会のみ 金一〇、〇〇〇円
- 一泊(朝食付) 金一五、〇〇〇円
- 一、申込期間 昭和六十三年五月三十一日まで
- 一、申込先 京都市左京区修学院水上田町八一
- 一、振替口座 電話 〇七五・一七一・一七八七五
- 京都市 三三九八五 神戸俊夫

支部だより

六十二年度東京支部 行事報告

旅行会

昭和62年10月25日(日)、ハトバスによる「ミナト横浜名所めぐり」を実施した。

当日は天候にも恵まれ、46人(うち家族13名)が東京駅に集合し、一路横浜へ向つた。

まず、横浜を代表する名園「三溪園」を訪れ、秋の心地良い日さしの中で美しい草花に囲まれ、めいめいのんびりと散策した。中華街での昼食のあと、異国情緒あふれる元町を散策しながら横浜港を見渡す臨海公園「山下公園」へ向つた。ここからミニクルーザ横浜港遊覧船に乗り込み「みなと未来21」計画で大きく変わろうとしている横浜港を海上から見学した。最後に、帆船「日本丸」を訪れ、船内見学を行ない、めいめい「白い貴婦人」の前で記念写真を撮つたりして、ミナトの空気を満喫した楽しい一日を締めくくつた。

見学会

昭和62年12月8日(火)に、東京・世田谷・砧にある「NHK放送技術研究所」を訪問した。(参加者45名)

まず、情報特許部のチーフエンジニア志賀氏から研究所の概要並びに、世界のTV放送・文字放送の歴史、最新の放送技術、今後の放送技術について判り易く講演して頂いた後、ハイビジョンの番組をフィルムにおとしたフアンタスティクな映画を観賞した。一同その映像の迫力・鮮明さに度胆を抜かれた恰好であった。TV放送という生活に密着したテーマもあつてか、参加者から活発な質問が飛び出し、時間のたつとも忘れる程であった。その後、所内の施設(「BS-2システムのあらまし」、「高品位TV信号からレーザ録画で作られた映画フィルム」、「ゴーストキャンセル付TV」等)を見学させて頂いた。

昼食時には、同所研究主幹・田子島氏を囲んで雑談を行ない、未来の楽しい放送技術に夢を馳せながら解散した。

講読会

63年2月12日(金)、沖電気目黒ク

ラブにて、16時より工業技術院・電子総合研究所・基礎部長・石黒武彦氏(昭36年卒)を講師にお招きして「最新の超電導技術の動向」と題して、2時間にわたり講演をして頂いた。

超電導というホットなテーマもあつて、平日にもかかわらず例年になく参加者も多く41名を数えた。講演内容は、①超電導とは、②何故超電導が必要か、③超電導で何が出来るか、④超電導体の姿、⑤今後の課題、の筋書きで、種々の最新資料を見せて頂きながら、非常に判り易く、整理された内容であつた。このため、超電導というものが、非常に身近かなものと感じることが出来、却つて質問が数多く飛び出し、制限時間を大幅に超過するという盛況さであつた。

同窓会だより

日立四明会

昭和62年12月の「洛友会会員名簿」の七、「会員勤務先別索引」には、日立関係の二四八人の名前が見える。此の中で東京在住有志(昭27以前)が「四明会」を作っている。

この会は故人、鎌居大蔵氏(大3)、楠本宗次郎氏(大7)、神原

平田憲一 北野豊
三浦武雄 白根三
三浦武雄 園山松
昭和62年12月14日 東京丸の内
吉三氏(大11)、三浦倫義氏(大13)、橋本真吉氏(大14)によって創められ、年二回の割合で夕食を共にして来た。

加藤孝之 高木正
近松敬之 松井茂彦
高田昇平 西田 飛

昭和62年12月14日、東京丸の内日本工業クラブで例会開催。左記の人達が出席した。

お互の健康を祝して乾盃の後、歓談数刻、昔を語り、現状を知らせ合つたのち、来年6月の会合を楽しみに散会した。(小宮記)

出席者(アイウエオ順・敬称略)
占部五郎(昭5)、落清(昭14)、加藤孝之(機械昭26)、加納忠勝(昭27)、北野豊(昭24)、小宮義和(大15)、園山裕(昭22)、高木正(昭10)、高田昇平(昭10)、近松敬之助(機械昭9)、西岡博(昭25)、平田憲一(昭5)、畑捨三(昭23)、松井茂彦(昭9)、三浦武雄(昭24)

会員寄稿

中国雑記(5)

昭和二十三年卒
陶坊資

今回は、少し碎けた話、中国のトイレについて、色々思い出し見ようと思う。

トイレ考

そもそもトイレは、人間生活にとって、極めて密接である筈のものである。生命維持にとって最も大切と思われている「食」でも、何日か断つことが出来るが、トイレは一日も欠かす事が出来ないのだ。それ程人間生活にとって重要なものであり、且つ事実上最も親しくつき合っているにも拘らず、過去の歴史や文学芸術にも、トイレは中々姿を現わしてくれず、医学や建築学等にトイレに関する書物がわずか見られる程度で、トイレは常に日の当たらない北側の片隅に押しやられ、いつも日蔭者扱いを受けて来た様に思う。

たまたま私の父が衛生学専攻の学者であつた事から、私は中学生の頃、家にあつた公衆衛生生に関する

る書物を見る機会があり、世界には色々なトイレがある事を知つて、大いにトイレに興味を感じ、それから用を足す時は、トイレそのものをよく観察する習慣が生じた。たしかに方々を観察して見ると、中々面白い。その地方、民族及び習慣によって皆異なり、夫々特徴あつて、いかにもいわくあり気である。恐らく夫々独自の歴史と由来があるのであろう。それを詳しく調べ上げればもつと面白かつたであらうが、私もそこまではゆとり過ぎず、そのルーツまでは探っていない。

勿論最近近は衛生的見地より、恐らく最も科学的であろう世界共通の水洗式トイレが広く普及して来たので、もはや観察の興味は殆どなくなつて了つた。

中国でも、都会の高級ホテルは、皆西洋式のトイレであるから、他の国と殆ど変らない。しかし、それ以外のトイレはホテルとは大分趣が異なる。更に地方へ行つて、一步庶民の生活に近づくと、又一段と開きが生じる。まして中国は広いので、南と北とでは、又々大きく様相が違つて来るのである。私は、送電線建設を業としていた為、調査や工事で方々へ出張して、色々な所へ泊つた。従つて、都会ばかりでなく、山間僻地の農

民のトイレ等についても、実際に体験させられたので、今これらを振り返って、各種のトイレについて思い出して見ようと思う。

御殿

昔の御殿にはトイレが無く、おまるで用を足し、誰かがそれを始末する、これは古今東西共通であったと聞く。

私が始めて北京の故宮に入ったのは中学の時であったが、宮殿のトイレはどんなものか一心に探したが見付からなかった。高校の頃始終松島湾でボートを漕いだ、その時よく寄った伊達政宗の瑞巖寺でも、古来のトイレはみつからなかったと記憶している。他の御殿やお城でも色々探してみた事丈け覚えていた。ただ、大学の時、桂離宮である有名な砂便所を参観し、極めて衛生的且つ文学的であるとの説明を受けた事が非常に印象に残っている。即ち香を焚きしめた白砂にまぶしたものを捧げ持して始末に行く召使にとつても、非常に優雅な一時となり、世界に冠たる日本文化の粹であるとの解説であった。

の男女が沢山いるから、何時どこでも用が足せるおまるが一番便利で、ワザワザトイレを作る必要がなかったのかん知れない。そして身分によって、金銀又は玉石等のおまるを用いていたのであろう。勿論おまるの展覧会等見たことがないが、宝物殿の色々な宝物の中からそれらしいものを見つけ、勝手に想像力をたくましくしている次第である。

この宮殿のおまるの習慣が、中国では、民間にも根強く残り、一般人でも、地主や資産家ばかりでなく、南方では今でも広範囲におまるが用いられている状況である。

北と南

北方と南方とは、色んな点で習慣が違う。勿論どこまでが北で、どこからが南方か、厳格な規定はないが、一般には、黄河又は揚子江を境と考えている人が多い。トイレについての南北の差、最も代表的な差といえば、北方はしゃがむのか普通であるに反し、南方では腰かける姿勢をとる事にある。国家標準は、前述の如く、しゃがむ方式を推奨している。

ペルサイユ宮殿には、ずつとあとになつてから、トイレ、それも水洗トイレを設けたとの事であるが、一般に宮殿では昔から下働き

文章が途中で切れましたことをおわび致します。(以下次号)

居所(行方)不明者一覽表

昭和63年3月末現在 (表中敬称略)

本年は電算化名簿第4版の発行準備年に当たります。正確な名簿を作成するため、前回(昭和62年1月号)掲載しました居所者不明の一覽表を再度公表します。ここでいう居所者不明とは、居所及び勤務先が、当会名簿は勿論、京都大学卒業生名簿にも居所不明者として登録されている方をいいます。

記載会員の同期の方、又は該当会員の消息をご存知の方は、お手数ですが事務局までご一報賜りますようご協力方お願い致します。

なお、卒業年次の次の数字は、1:電気、2:電子、3:電IIを示します。(本表中には海外駐在者で居所不明者及び電気工学講習所卒業生の方は除外してありますのでご了承ください。)

Table with 10 columns: 卒業年, 氏名, 卒業年, 氏名, 卒業年, 氏名, 卒業年, 氏名. It lists names and graduation years of members whose whereabouts are unknown.

会員住所変更一覽表

昭和63年3月20日現在
(表中略敬称)

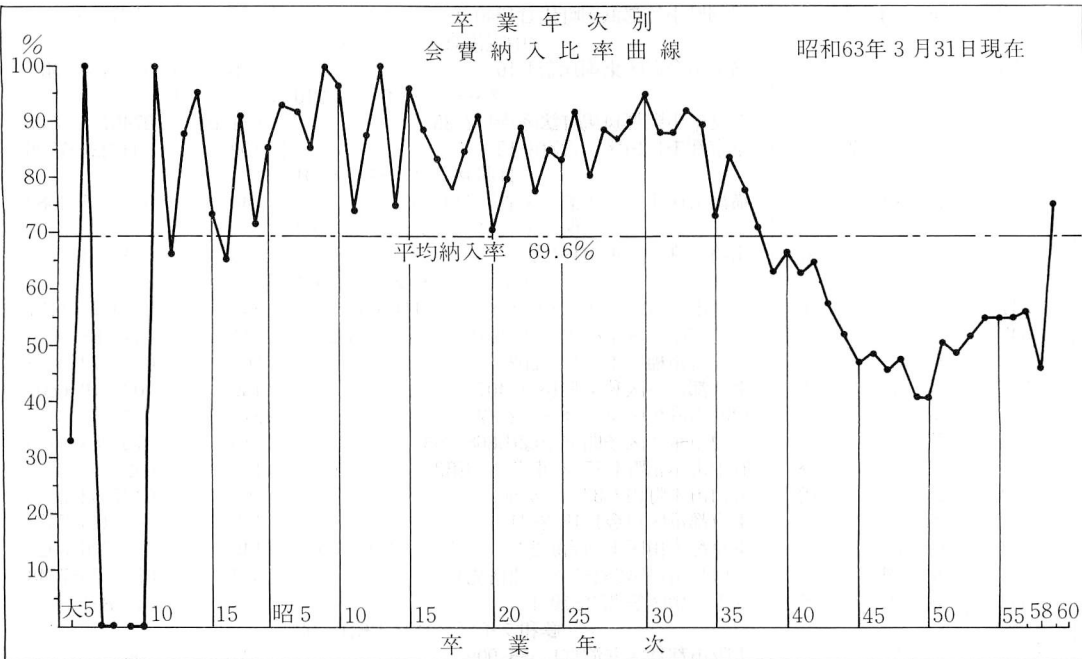
前号(昭和63年1月号)に題記発表後3月20日までに次の会員の住所変更のご連絡がありましたので掲載致します。これ以後の分は、次号掲載とさせていただきます。あしからずご了承ください。

表中、卒業年次の次の数字は、前月号の一覽表中の表示と同一ですので省略致します。

卒業年	氏名	住所	番	電話
大108	荒井一郎	豊中市西緑丘3-12-23	560	06-848-5238
〃110	林正一	横浜市緑区あざみ野3-2-14棟202号	227	045-903-0227
〃148	牛島宗平	八女市祈禱院449	843	09432-2-2856
昭088	三好保憲	春日井市藤山台2-2-3-207棟204号	487	0568-91-8550
〃158	茂地重治	宇治市伊勢田町名木1-150	611	0774-43-6651
〃165	津村元	横浜市港北区大曽根2-55-17 (表示変更)	222	045-531-5293
〃210	秦喜久雄			0568-62-9317
〃220	深町藤吉	大分市高崎2-17-4	871	0975-45-0222
〃220	山本孟	長岡京市天神3-2-15	617	075-953-0576
〃250	大谷清二	兵庫県氷上郡氷上町成松673-4	669-36	0795-82-5669
〃260	安田嘉一	仙台市支倉町4-40-1006	980	022-268-6236
〃286	安芸修	徳島県板野郡上板町神宅原5	771-13	0886-94-2007
〃286	近藤貞吉	保谷市東伏見5-9-15 (名簿住所間違いのため)	202	0424-65-8782
〃286	藤本一郎	奈良市朱雀1-15-10-302	631	0742-71-2618
〃300	吹沢直温	西宮市塩瀬町生瀬1264-191	669-11	0797-84-0308
〃300	望月昭彦	東京都品川区北品川6-2-11 島津山ヒルズ301号	141	03-442-8186
〃332	林良一	西宮市仁川百合野町9-30	662	0798-51-1946
〃341	松野隆昭	東京都杉並区浜田山4-5-29	168	03-316-7063
〃352	上野裕	四街道市みそら4-24-2	284	0434-32-0771
〃352	寺澤美純	広島市東区光が丘8-12-102 (ハイツ光が丘)	732	082-262-4592
〃361	高口頼三	東京都杉並区堀ノ内1-7-9-516	166	03-318-6205
〃362	川波充	2274 Dunwoody Crossing, Atlanta GA 30338 U.S.A.		494-457-6951
〃371	田原秀穂	北九州市八幡西区紅梅2-10-1	806	093-622-5461
〃371	佃作郎	大阪市阿倍野区松崎町2-9-21-2-6	545	06-629-6896
〃371	林一三	北海道空知郡奈井江町字奈井江21-76 住電社員クラブ	079-03	01256-5-3133
〃382	松崎充宏	横須賀市深田台2	238	0468-24-5430
〃412	小寺沢暉三	神戸市西区美賀多台4-19-31	673-02	078-961-3461
〃412	脇田邦彦	所沢市北秋津206-18	359	0429-93-0706
〃421	川合新一	奈良県北葛城郡河合町泉台1-89	636	07455-6-5307
〃422	藤原正雄	狛江市西野川1-2-1 松山グリーンヒル103	201	03-480-8177
〃423	片山修二	町田市金井町2000-11	194-01	0427-35-2277
〃431	福井武	奈良市東登美が丘5-1-9 (表示変更)	631	0742-49-1895
〃432	西岡隆文	福山市草戸町4-19-6 (表示変更)	720	0849-31-1673
〃433	堀江俊輔	横浜市緑区元石川町6732-14	227	045-902-0313
〃442	瀬戸研一	奈良市北登美が丘4-12-7	631	0742-49-2449
〃443	古川俊介	東京都世田谷区砧4-11-10-102	157	03-417-9787
〃451	荻山嗣晃	春日井市鳥居松町5-5634-5	486	0568-83-9724
〃452	河島俊一郎	枚方市印田町38-57	573	0720-47-9232
〃452	三宅良雄	藤沢市鶴沼海岸桜が岡3-20-15	251	0466-24-2029
〃453	長谷川清文	千葉市小中台町567-1-905	281	0472-56-2166
〃461	宮武修	北九州市戸畑区西鞆が谷14-6	804	093-881-3406
〃463	加藤剛	大和市下鶴間1849-10	242	0462-76-5453
〃471	太田光	滋賀県野洲郡野洲町富波乙780-38	520	0775-86-0222
〃473	長島孝	東京都西多摩郡日の出町平井2196-232	190-01	0425-97-1305
〃473	藤谷洋治	河内長野市南花台1-2-12	586	0721-63-5291
〃473	山田雄一	名古屋市名東区藤里町2101 香流グリーンハイツ203号	465	052-773-2509
〃473	平野洋一	つくば市吾妻2-711-903	305	0298-51-9952
〃481	武藤敬			075-623-0260
〃482	児玉富士夫	上尾市錦町34-3 美原コープタウン D-304	362	0487-76-0531
〃483	阿部則雄	生駒市生駒台北87	630-02	07437-5-4315
〃483	西瀬戸孝明	横浜市西区南軽井沢58-5-503	244	045-316-2584

卒業年	氏名	住 所	番	電 話
昭492	今村雄二郎	神戸市西区竹の台5-7-18	673	078-991-3956
〃493	城野公男	松戸市新松戸3-296-1B-1104	270	0473-46-7574
〃493	神野厚英	豊中市南桜塚2-9-17 神野操方(留守宅)	560	06-854-3636
〃501	小川哲生	武蔵野市境南町1-28-7 パレスむさしの	180	0422-33-2902
〃501	梶本浩	千葉市新千葉3-8-5	260	0472-41-1632
〃502	野本光	藤沢市辻堂元町6-6-1 アルス藤沢201	251	0466-35-5377
〃503	高橋真琴	名古屋市区神の倉3-13-2	458	052-876-2073
〃511	芝田健治	京都市西京区大枝北杏掛町3-12-4	616	075-331-8932
〃512	辻伸二	埼玉県入間郡日高町武蔵台6-4-12	350-12	04298-2-3071
〃513	小林賢	大阪市淀川区三国本町2-13-37-1109	532	06-399-2609
〃521	竹田稔	大宮市三橋1-629-1 グリーンパーク大宮2-606	331	0486-53-1988
〃523	鹿角吉夫	静岡県小笠郡浜岡町佐倉1340-1	437-16	05378-6-8035
〃523	畑賢	中電佐倉アパートA-304 横浜市金沢区東朝比奈3-16	236	045-784-2497
〃531	安井孝史	クローバハイッ C-210 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺1-2-25	631-01	07457-4-3705
〃532	木村節夫	東京都千代田区一番町8-13	102	03-221-7726
〃533	河村修	日興ロイヤルパレス201 横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町243-80	240	045-715-4082
〃533	山崎徳和	保土ヶ谷ファミリーハイッ204 川崎市麻生区細田1-1-6	215	044-954-7153
〃541	松野逸美	クリオよみうりランド410号 越谷市大沢2-15-6 ハイッサンリバ1棟205号	343	0489-76-1131
〃542	鈴木保人	川崎市中原区下小田中59 堀込マンション302号	211	044-788-0079
〃542	野々山徹	伊土丹市梅ノ木3-1-5-202	664	0727-72-3272
〃542	廣瀬雄二郎	東京都渋谷区猿楽町16-1-407	150	03-770-6607
〃543	藤代浩司	川崎市麻生区東百合丘3-23-2	215	044-954-3164
〃551	藤原彰	神戸市垂水区多聞町小塚山868-293	655	078-783-4135
〃551	三木修	府中市本宿町4-17-3 東芝本宿第2アパート302号	183	0423-61-4002
〃552	徳梅孝啓	町田市本町田2533-ハ-4-502	194	0427-92-2080
〃552	西本修一	東京都港区白金1-15-2-417	108	03-446-7824
〃553	梅山一弥	東京都太田区上池台5-22-3 ハイッタナカ203号	145	03-726-5920
〃553	川畑茂	寝屋川市高宮652-133(連絡先)	572	0720-23-7048
〃553	北山佳延	横浜市栄区笠間町819-1	247	045-891-8973
〃553	畑崎香一郎	藤和ライブタウン大船1-302 大阪市都島区友淵町1-3-5-909	534	06-927-1147
〃553	船造康夫	枚方市朝日丘町10-34-418	573	0720-44-5812
〃553	安福正樹	伊丹市千僧2-162-11	664	0727-75-0950
〃562	藤井良久	奈良市三条宮前町1-38-307号	630	0742-33-9689
〃562	堀仁孝	町田市中野3-12-9 岡本荘207	192	0427-26-9839
〃562	八木泰樹	岡崎市柱町字庄司田11-100	444	0564-54-6056
〃562	和田修己	岡山市津島福居2-10-4 岡大福居宿舍212	700	0862-53-4189
〃563	石上和宏	相模原市相模大野5-22-6 ケヤキコーポラス203	228	0427-49-6534
〃553	福田和弘	河内長野市清見台3-1-7	586	0721-63-5232
〃563	三根清	多摩市落合3-4-3-1102	206	0423-37-1712
〃571	工藤護正	市川市南行徳3-10-8 ムラタハイッ101号	272-01	0473-96-2193
〃571	弘津研一	宝塚市南雲雀ヶ丘2-1-1 住友電工雲雀ヶ丘寮	665	0727-59-4014
〃571	馬籠幸一	川崎市高津区千年747-2 バルハイッ102号	213	044-755-6202
〃572	井上徹	大津市蛭谷1-44(同姓同名異人の住所間違い)	520	0775-37-3322
〃572	坂入夏彦	横浜市港北区篠原東3-11-38 グリーンハイッ12	222	045-401-1644
〃571	松本吉永	高岡市白金町8-17	933	0766-24-5182
〃573	田中裕彦	守口市外島町6-西1-1605号	570	06-998-6051
〃573	湯川博司	大阪市城東区西1-9-12-302	536	06-961-7442
〃581	大橋一夫	柏市今谷上町42-7 村上ハイッB-6	277	0471-73-5394
〃583	大城寿之	静岡県磐田郡浅羽町浅名480	437-11	0538-23-4641
〃591	大石敏雅	川西市久代4-3-1-144	666	0727-58-1096
〃591	川中雅史	川崎市多摩区中野島2400 日本電気登戸寮	214	044-911-9796
〃591	岸本圭司	神戸市東灘区御影山手2-23-19-201	658	078-811-4269
〃592	杉山和彦	つくば市吾妻1-402-502	305	0298-51-6209
〃592	松枝洋二郎	諏訪市四賀780-3 四賀ハウス110号	392	0266-52-3986
〃592	安井英俊	市原市辰巳台東3-2 古河電気工業第2寮C-14	290	0436-74-2010

卒業年	氏名	住所	☎	電話
昭601	尾林秀一	横浜市港南区大久保2-14-1 東芝上大岡寮	233	045-842-0550
〃602	石角彰一	横浜市港北区日吉本町1717 ヒルハウス202号	223	
〃602	三重野雄資	芦屋市岩園町2-6	659	0797-23-1653
〃603	近内藤淳	横須賀市平作1-16-6 東芝衣笠寮 B-209寮	238	0468-52-0616
〃603	藤田智出	鎌倉市大船6-2-10 三菱電機白百合寮218	247	0467-44-1837
〃603	藤田智勝	川崎市麻生区王禅寺1170 日立王禅寺寮	215	044-966-6148
〃612	藤野志士	厚木市旭町4-13-1 ソニー厚木工場1B寮	243	0462-30-5031
〃612	吉上野浩	京都市左京区吉田中阿達町17 八木方	606	
〃621	野野司	相模原市富士見3-10-1 日電矢部寮	229	0427-55-0607
〃622	三木隆	川崎市麻生区上麻生3-15-7 新百合ヶ丘セントラルパレー 1-517A	215	044-955-5461



卒業年次別会費納入 状況について

お陰様で昭和62年度の会計業務も締め切り、目下これらの集計中でありませう。

前年に引続き今年も卒業年次別会費納入状況について報告致します。これらの状況をグラフに表示しますと別図のとおりとなります。

このグラフを作成しました集計及び納入者比率の算出基準は、前回昭和61年5月会報一三五号と同様ですから省略させていただきます。

参考までに会費納入対象者総数(A)四六〇八名で、これに対し納入者総数(B)三二〇七名で従って各年次の平均納入率(B)/(A)は、六九・六%となり前年度六四・八%と比較して約5%増加となりました。同上グラフから62年度納入状況を前年度と対比してみますと、

(1)大正及昭和38年までの間は今年平均値を大幅に上廻っている。

(2)納入率が平均値を下廻る年代は略昨年と同様である。

(3)平均値を下廻る年代の幅は昨年と同様で底が浅くなった。

以上、大略の傾向を報告した今後のご支援をお願いする次第です。

編集後記

前半は暖冬で後半に寒波に見舞われた今年の冬も過ぎ陽光麗かな4月を迎え、会員各位にはご健勝の御事と存じます。本年も一二〇名の新鋭会員を迎え本会も益々発展の一途を辿っています。

本号には教室だよりとして教室西館の新装機構が詳細に発表され我々卒業生としてもその完成が心待ちされます。

会員寄稿の中国雑記も5回目を迎えいよいよ佳境に入ってきて来ましたが、今回も紙数の都合上全文掲載出来なかったことをおわび申し上げます。よろしくご支援の程を。

計報	氏名	頁数
講大7	伊沢鏡三	62・11・15
講大10	西崎三郎	62・12・26
講大12	桑畑弥十郎	62・12・6
講大13	丹羽銀重	62・2・8
講大14	徳田精	62・12・24
講大14	土居克巳	62・11・28
講大3	東善男	62・2・27
講大4	大黒峯治	62・6
講大11	生田努	63・1・5
講大14	八木与一	63・1・9
講大17	守谷昌造	62・7・8
講大47	出沖俊夫	62・11・27

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。